

テーブル連続小説

さよなら・愛

第5話・別れは突然に

「終わりにしましょう」

私はわざと感情を殺したような、冷たく凍りついた声で彼に告げた。

「と、突然どうしたんだよ？せっかくの楽しいドライブなのに」

彼と私の付き合いはもう十年にもなる。五年前に夫と出会う前からいつも一緒にいた、大好きな彼。結婚して二年経った今も、私は彼から離れることができずにいた。でも、この関係は今日で終わりにする。固い決意をもって対峙する私と、何も知らない彼の絶望的な温度差が、真夏の夜を冷やしてゆく。

「もう限界よ」

彼を見つめる。十年も一緒にいたからか、塗装には細かな傷が無数についている。下廻りは錆でぼろぼろ、他の部品だって方々ガタがきてる。車検のことを考えても、ただでさえ修理や整備に経費がかかるというのに、この先重量税も上がり、家計への影響も無視できなくなっていく。

「そんな！俺はまだやれるって」

「もう無理よ！子供だって生まれるし、貴方のこと夫にも話したの！」

「え……！？」

十三年落ちとはいえ、2ドアクーペの彼は今でも魅力的だと思う。しかし、チャイルドシートを使うことや家族がこれから増えていくことを考えると、彼とこれから先何年も一緒にい続けるという絵を、私たち一家には描くことができなかった。

「さよなら……貴方との思い出が美しいうちに、下取額がこんなにつくうちに、別れましょう」

私は三菱の担当営業が作ってくれた新車乗り換えに関しての経費比較グラフを彼に見せた。

彼は観念して、苦しそうに目を閉じた。

「そっか……俺、まだこんなに下取評価額が高いんだ。わかったよ。北海道三菱のクリンカーセンターで、新しい出会いを待とうかな」

新しい道を進む——そう決めて目を開いた彼の顔は、出会ったときと変わらない爽やかな笑顔だった。私と彼に新しい生き方を教えてくれた乗換シミュレーター、本当にありがとう。

つづく



夏こそ行動だ。

思い出が美しいうちに……

貴方の愛車の乗換時期

無料診断実施中